

ある人間を育てる。④根気・意欲のある人間に育てる。
このことは、人間として誠実に生きていくための基本的要素をしっかりと教えようとしていることを示している。

(二) 基礎学力調査

教師側は生徒の学習活動から、基礎学力の不足を十分に認識しているが、それがどの程度であるか、確実なデータのもとに把握していない。そこで研究を進めるにあたって、基礎学力調査を実施し、生徒の基礎・基本の理解度を確実に把握し、意識実態調査と合わせて、本校生の全体像をとらえることを目的とした。そこで、五教科それぞれの教科内で、基礎基本事項と考えられるものを、小学校段階までおろして検討した。その中で、「基本とは何か」という根本的な問題も出たが、限られた時間と問題数では、それを的確に把握することはむずかしいことである。だが、この研究を進めるにあたっての目安として、今後の研究に役立つものを五教科で出題し、全校一斉に実施した。

実施方法

対象 全クラス(一～三年)
日時 昭和五十九年七月十六日
方法 一教科三十分(五教科二時間半通し)
処理 クラスごと、教科ごと採点
(コンピュータ入力処理)

表1 研究主題並びに研究計画

	国 語 科	社 会 科	数 学 科	理 科	保 健 体 育 科
研究テーマ	表現力を高める授業内容の研究	社会科の基礎学力を高めるための教材内容の構造化	興味を持たせるための授業内容	生徒の実態に即した教材の精選	設定目標を達成する学習の展開
研究の目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章で表現することに意欲的に取り組むことができる。 テーマにふさわしい的確な文章を四百字程度にまとめて書くことができる。 書くことを通して、自分の考えや生活を見つめ直すきっかけとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的事項の理解を通して積極的に授業に参加させる。 単元目標を筋道をたてて説明できる。 基礎的事項、応用的事項を踏まえ、現在の社会事象について認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力と思考力を身につけさせる。 実態調査に基づいて教材の精選と指導法の工夫改善を図る。 いくつかの基本的事項を組み合わせた問題を分析し処理する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合った教材を精選し、学習効果を高める。 「わかる授業」を展開し学習に意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成することにより、運動の楽しさ、喜びを味わわせ、人生における運動のすばらしさを認識させる。
研究方法	<ol style="list-style-type: none"> 表現に関する意識・実態調査 授業実践——表現指導の強化 <ul style="list-style-type: none"> 短い文章の訓練から長い文章の訓練に移る。基本文例の練習を積ませる。 実用的な文章の訓練 国語Ⅰ・国語Ⅱでの表現についての指導案を作成し実践する。 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 基礎的・基本的内容の構造化 <ul style="list-style-type: none"> 中学校各分野における内容 高校各科目における基本的内容 2と有機的結びつきの中で応用的内容についても構造化を図る。 生徒がどの段階でつまづかかを形成的評価などを通して把握に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 実態調査に基づいて指導計画の作成(教材の精選と構造化＝教科書内容の配列の工夫) 2とともに具体例をできるだけ取り入れたり、視聴覚機器を利用して興味関心を持たせる。 授業実践 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 意識・実態調査 基礎学力調査 実態に即した教材の精選 授業実践 定着度テスト 分析と事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 授業実践 <ul style="list-style-type: none"> 各種目において評価につながる段階的基準を設ける。 基準を生徒に提示し、毎時間それに向って努力させる。 上位の段階へ進むよう意欲を持たせる。 事後考察
	芸 術 科	英 語 科	農 業 科	商 業 科	家 庭 科
研究テーマ	季節感を取り入れた授業—原体験を呼び起こす空間—	生徒の英語学習への動機づけと基礎学力の定着	実験・実習に工夫をこらした学習の展開	学習についての興味・関心を高める指導法の研究	実験・実習を効果的に行うための教材・教具の工夫
研究の目標	<ul style="list-style-type: none"> 見たり聞いたりふれたりする感受性を育成する。 製作上の手順及び表現上の工夫の焦点を明確にする。 意欲的に生き生きと取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏の文化や人々に興味関心を抱き、英語学習に進んで取り組ませる。 基礎学力が定着し、簡単な自己紹介程度のことを英語で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業学習への興味関心を高め、基礎的学習の定着を図る。 実験・実習を重視し、専門的知識および技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に基づき、指導法の工夫改善を図る。 商業科目としての基礎基本の定着を図る。 生徒に成就感を与えることをねらいに「わかる授業」の展開を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習を重視した指導内容の精選を図る。 実験実習における教材教具の工夫により意欲的に学習に取り組ませるとともに学習内容の定着を図る。
研究方法	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 テーマ設定 授業実践・同時展開 <ul style="list-style-type: none"> 季節感を取り入れた統一テーマにより、三教科で同時に授業を展開する。 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 意識実態調査 教材の精選と研究 少人数編成クラスによる授業の工夫 補助教材の作成と活用 視聴覚教材の活用 校内レクレーションコンテストの実施 英語検定への取り組み 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 指導内容の基礎的な精選と指導計画の検討・作成 実験・実習(プロジェクト)を重視した指導法の研究と実践 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 単元の段階別学習目標の設定 到達度テストの作成と実施 視聴覚教材の効果的活用 グループ学習の実施 事後考察 	<ol style="list-style-type: none"> 実態調査 指導内容の精選(実験実習を多く取り入れた) 教材・教具の工夫 授業実践 事後考察